

2024年8月28日

報道関係者各位

サスメド株式会社

サスメド株式会社（本社:東京都中央区、代表取締役社長:上野 太郎、以下「当社」）、国立大学法人新潟大学（所在地:新潟県新潟市、学長:牛木 辰男、以下「新潟大学」）は、持続性知覚性姿勢誘発めまいに対する認知行動療法アプリ（以下、「本アプリ」）の研究開発を共同で進めておりますが、このたび臨床試験を開始したことをお知らせいたします。

<共同研究の概要>

本アプリの対象となる持続性知覚性姿勢誘発めまい（persistent postural perceptual dizziness: PPPD、以下「PPPD」）は、2017年にめまいの国際学会であるBarany学会から診断基準が発表され、WHOの国際疾病分類(ICD-11)に新規収載されためまい疾患です。PPPDに対する有効な治療法の1つである認知行動療法は、現状、精神科医や公認心理師などの専門職の対面による介入が必要なこと、実施に時間がかかること、保険適用がないこと、などから日本では限られた施設でしか行われていないため、本アプリを社会実装することで、限られた医療資源を有効活用し、より多くの患者さんが認知行動療法にアクセスできるようになることが期待されます。詳細については、以下（2024年5月17日のリリース）をご参照ください。

https://susmed.co.jp/wp-content/uploads/2024/05/20240517_news_PPPD.pdf

<臨床試験の概要>

臨床試験は、当社と新潟大学で開発した本アプリをPPPD患者さんに実際にご利用いただき、情報通信技術を用いた認知行動療法の実施可能性を検討することを目的に実施されます。臨床試験終了後は、得られた知見やデータをもとに、新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野のこれまでのPPPDに関する研究・診療実績とサスメドの治療用アプリの開発経験・特許技術を活かし、医療機器承認に向けた製品開発を進める予定でございます

<本件に関するお問い合わせ先>

サスメド株式会社 E-mail: support@susmed.co.jp